

『イタイイタイ病を考える県民フォーラム』を開催しました。

2月18日（土）13時より、資料館2階交流学習ルームにおいて、「イタイイタイ病を考える県民フォーラム」を開催し、約110名の方々が参加されました。

鏡森館長による開会挨拶の後、イタイイタイ病対策協議会の高木勲寛会長より、「イタイイタイ病対策協議会50年のあゆみ」と題し、昨年11月に結成50周年の節目を迎えられたことから、初代会長である故・小松義久氏を中心としたこれまでの活動の足跡や現在の取り組みなど当時の新聞記事や写真を交えながら語っていただきました。

この後、鏡森館長による資料館の入館者状況や取り組み等についての事業報告、石井知事の挨拶に続き、富山市立城山中学校、富山県立富山中部高等学校探究科学科、そして富山福祉短期大学看護学科の皆さんに資料館の見学を通して学習・研究した成果を発表していただきました。

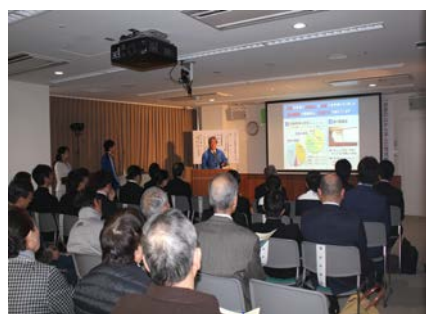
その中でも、城山中学校の発表では、3Dプリンターで再現したイタイイタイ病患者の骨の模型を示しながら、病気の原因について触れつつ、病気により多くの方々が苦しんだという事実を次世代へ継承していくことの大切さを強調していました。

フォーラムの最後は、記念講演として、アルピニストの野口健氏をお迎えして、「世界の山から学んだ環境問題」をテーマに、エベレストや富士山でのゴミ拾いを始めたきっかけなど、ご自身の体験や活動を交えながら、身近な環境問題に取り組むことの大切さについてお話いただきました。

会場の参加者からは、学習発表での生徒らの熱心さに対する称賛の声や、「若い世代に向けての情報発信をさらに進めてほしい。」といった期待の声など多く寄せられました。



イタイイタイ病対策協議会
50年のあゆみ（高木会長）



資料館事業報告



知事挨拶



学習発表会（富山福祉短期大学）



記念講演（野口 健氏）

大学生がイタイイタイ病について学習を深めました。

2月7日（火）、金沢大学人間社会学域の学生ら11名が来館され、イタイイタイ病について学習されました。

午前の部では、青木有明さんの語り部講話と鏡森館長による講演を聴講されました。

語り部講話では、イタイイタイ病の認定患者であった母親のご苦勞と当時の神通川流域の暮らしの様子等について語られる青木さんの講話に、学生らは真剣に聞き入っていました。

午後からは、フィールドワークとして、塩地区の復元田や旧萩野病院の跡地、復元記念碑など神通川流域のイタイイタイ病に関係する場所をバスで巡りました。最後に、清流会館を見学し、イタイイタイ病対策協議会の高木会長と意見交換を行いました。

ある学生からは、「環境や自然を大切にしていくのは勿論のこと、若い世代として、イタイイタイ病の教訓を忘れることなく多くの人に伝えていきたい。」といった意見がありました。

当日は、雪が吹き付けるあいにくの天候でしたが、イタイイタイ病にゆかりのある地を実際に目で見て、解説を聞いたり、質問をしたりして学習を深められていたようでした。



青木有明さんの語り部講話



鏡森館長による講演



フィールドワークの様子
(宮川地区土壌復元記念碑 見学)